

# 野田政権は辺野古新基地建設断念を！ 環境アセス評価書提出は中止を！

## 自国民を虐げ米国に貢ぐ野田政権に抗議！

11月12日、APEC首脳会議に伴ってハワイ・ホノルルで開催された日米首脳会談で野田首相は、オバマ米大統領に対し、沖縄県辺野古への新たな米軍基地建設計画を押し進めることを約束しました。具体的には、年内に環境アセスメント結果である「評価書」を沖縄県に提出するという約束です。

これは、沖縄県民が長らく示し続けてきた新基地建設（普天間「県内移設」）反対の意志を完全に踏みにじるものです。県民のなんらの同意もなしに米国と握手する野田政権は、沖縄県民を虐げ差別してきた歴史を繰り返しています。

「普天間移設」について「国外・少なくとも県外」と公約して総選挙に臨み政権交代を果たしたはずの民主党政権です。それが、国民の信を問うこともせず3代目の政権を打ちたて、まったく逆の政策＝「県内移設」＝新基地建設を一方的に沖縄に押し付けるという詐欺的な行為を許してはならないと考えます。



国民の声を無視して、辺野古新基地建設、TPP、増税

## 沖縄は怒り沸騰！

野田政権の「評価書」年内提出の動きに沖縄は怒り沸騰です。

沖縄県議会は、14日に臨時会を開催し、新基地建設に向けた「評価書」提出を断念するよう政府に求める意見書を全会一致で可決しました。「県内移設に反対する県内41市町村長、全県議会議員を含む県民の総意を無視しており、到底看過できない」と政府を厳しく批判、18日には県議会代表団が上京し政府に直訴しています。同様の意見書が名護市でも準備されています。

22日には、沖縄県選出・出身国会議員7人が、「評価書」の年内提出中止と一切のアセス手続きの中止をするよう、野田首相宛に申し入れています。

## 本土からも声を上げましょう！

野田政権に、辺野古新基地建設 No！ 環境アセス「評価書」提出の動きに No！ の声を届けましょう！

### 声を上げる方法例

首相官邸「ご意見募集」⇒<http://www.kantei.go.jp/jp/iken.html>

各府省への政策に関する意見・要望⇒<https://www.e-gov.go.jp/policy/servlet/Propose>

(2011.11.27)

# 米国は海兵隊をオーストラリアに展開 辺野古新基地に固執する必要はない！

## 米海兵隊の豪州駐留は中国包囲網の構築戦略

11月16日、オバマ米大統領はオーストラリアを訪問し、米豪の軍事協力関係を拡大する方針を発表、その中で、米海兵隊をオーストラリアの北部地域に駐留させ、軍事演習や訓練を実施することを明らかにしました。数年間のうちに2500人の駐留を目指すとしています。

中国の弾道ミサイルの射程から遠い拠点に米軍を分散させる措置であるとともに、訓練を行う上で沖縄のような制約がないことが利点だと言います。明らかに中国を仮想敵として照準を合わせた軍事戦略です。アジアの平和を脅かすことになりかねません。注意が必要です。

## 米国の安保政策の重鎮

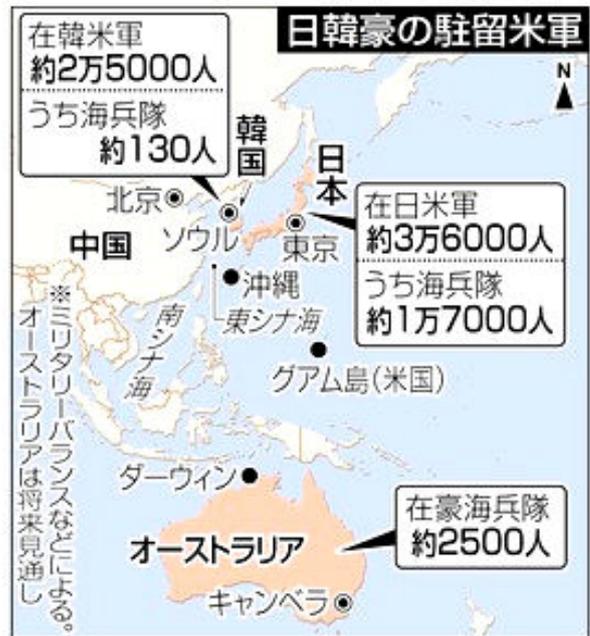
⇒**辺野古の新基地「沖縄の人々に受け入れられない」**

米クリントン政権の元国防次官補で、現在も日米安保関係への強い影響力を持つとされるジョセフ・ナイ氏が、最近の論文で、「沖縄県内に海兵隊を移設する現在の公式計画が、沖縄の人々に受け入れられる余地はほとんどない」と分析しています。そして、「海兵隊をオーストラリアに移すことは賢明な選択だ」としています。「東アジア戦略報告」を作成するなど、在沖縄海兵隊の重要性を説いていたナイ氏ですら、辺野古への新基地建設は困難であると認めたものです。

## 辺野古への新基地建設の根拠は失われた！

政府は、これまで、辺野古への新基地建設や米海兵隊駐留の根拠として、沖縄の地政学的位置が米軍事戦略や日米同盟にとって死活的なものであるということを説明してきました。しかし、実際には上記の通り、米軍はオーストラリアへ移駐を進めるなど新たな再編へと舵を切っています。もちろん背景には、沖縄の運動の力があり、また、米国の財政危機もあると考えられます。

一方の日本政府は、いつまで沖縄に負担を押し付け続けるつもりでしょうか？もう、沖縄に固執しなければならない理由はなくなったのです。いい加減に、辺野古の新基地建設の断念を米国に通告するべきです。



東京新聞 2011年11月17日 朝刊より

(2011. 11. 27)